

# 一枚の写真

信 樂 慧



年始早々、能登半島地震や旅客機事故など悲しいニュースが続きました。被災された方々に1日も早く平和な日常が戻ることを願っています。この写真は被災する前の、金沢駅の写真です。このような非常時に、仏教はどういった役割を担えるのでしょうか？

安楽寺寺報

# 聞 光

第110号 涅槃会号

発行所  
〒737-0054  
吳市上山田町2-28  
安楽寺  
Tel: 0823-21-7561

東日本大震災では、地震によって直接亡くなった方より、時間が経ってから亡くなった方が圧倒的に多く、災害が生じた後のケアが重要視されています。この部分に対して、仏教、特に浄土真宗は大きく貢献できるのではないかと思います。

仏教は「この世の苦しみの原因がどこにあるのか？ どうすればその苦しみから離れて生きることができるのか？」を教えます。中でも浄土真宗は、世俗にまみれながら凡夫の私たちがどのように生きていくのかを説いているため、特に現代に即していると思います。その一つの考え方が、いいご縁をいただきたいという「感謝」の考え方です。白骨の御文章にはこのように書かれています。

「われや先、人や先、今日とも知らず、明日とも知らず、おくれ先だつ人は、もとのしづく、すえの露よりもしげしといえり。されば、朝には紅顔ありて、夕には白骨となれる身なり。」

災害の現場では発生してすぐは水や食料などの物理的な支援が大切です。しかし、災害発生から時間が経つにつれメンタルヘルスのケアが重要になってくると言われます。

日常生活で私たちは自分と死を結びつけることがなかなかできません。しかし、今回の地震のように朝は元気だったのに、夜には大変な災害にあうこともあります。

また、歎異抄には「火宅無常」という言葉もあります。これは、火に包まれた家が、見る見るうちに滅びていくような無常の世界に私たちはいるんだという意味です。私たちの日常生活はこれからも続いていくかのように見えて、火のついた家の中にいるのです。本当にいつどうなるか分からない命を生きていることを自覚し、悔いのない時間の使い方をしているかと常々内省することがとても重要なのではないかと思います。そうすれば、どれだけ日常がありがたいものかおのずと感じられ、自然と感謝が湧いてきます。もちろん、人間である限り、ついついそれを忘れて生きてしまいます。ただ、少しずつでもそういった「感謝」を思い出せる機会を増やしていく、そういう心で育っていく、世界を覚めた目で見るようになるということであり、それが仏教に触れるということだと思います。

# 結婚式・披露宴

# 安楽寺マンガ通信

その60 めぐみ作



父さんが作ってくれた結婚式の案内看板

ヴェールダウン！



リングドックを頑張ってくれた空



披露宴のお色直しは兄ちゃんとはあちゃんと！



今回は、私事ですが、ご報告になります。



私、信樂慧は、令和6年1月27日に結婚をしました。姓は下田になります。そこで今後のマンガ通信は、「信樂めぐみ作」から「めぐみ作」とさせて頂きま



お相手は、お寺の方ではなく、一般家庭の方との結婚で、2人で京都のおじいちゃんの家に住む予定です。

ですので、今後も聞光や法要の時など、お寺と関わっていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。



新たな家族の形が出来るまで、色々あるかと思いますが、お互い思いやりを持った家庭を築いていければと思います。温かく見守っていただければ幸いです。

編集後記

1、2面では、元旦に起こった能登半島地震についてお話ししております。被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。こういった災害は事前に心の準備をすることはできません。そのため、浄土真宗では、白骨の御文章にて、生きることに対する覚悟を教えてくださいたいです。今回の結婚についても報告させていただきましたが結婚式の準備をしていく上で、私自身色々な方に恵まれた人生でできた事を改めて気づかされました。大きな人生の節目に立つことで、改めて今生かされていることに感謝し、支えあって生きていきたいと思っています。

めぐみ

# 覚悟の信心

信楽 晃仁

今年の元旦は大変な事がおきました。北陸の能登半島で震度7という大地震が発生し、たくさんの方が倒壊、たくさんの方が亡くなりました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。未だに避難生活が続く、今年一番の寒波の中で寒さに震えながら、この苦難に耐えておられる皆さまに何もできず、申し訳なく思うことです。

今から二百年前、良寛さんが生きておられた時にも、三条地震という大地震が起き、一万二千軒の家が倒壊、千五百人の人が亡くなったそうです。良寛さんはこの時、やはりこの震災で被災した山田杜卓（とうさく）と言う人に手紙を出しています。その後、「災難に遭う時節には災難に遭うがよく候。死ぬ時節には死ぬがよく候。是はこれ災難をのがるる妙法にて候」と書かれています。禅の悟りに達した良寛さんならではの言葉です。

安楽寺では元旦会に白骨の御文章を頂きます。前住職が「安芸門徒の中には元旦に白骨の御文章を頂いてきた家がある」と話してくれたことがあり、それ以来元旦会には白骨の御文章を頂きます。白骨の御文章を耳にすることはお葬儀の後、というのが圧倒的多数の中で、安芸門徒はおめでたい元旦にこの御文章を頂いたのです。そのことを今年は改めて考えさせられました。

この度の元旦の朝、能登地方では都会に出ていた子ども達が実家に帰省し、久しぶりに親の元でゆつ

くりしていたことだと思えます。朝もゆつくりとしてみんなが揃い「あけましておめでとう。今年もよろしくお願ひします。今年はいいい年にしましょう」などと新年の挨拶をし、お節を開き酒をつぎあい、歓談して新年のつかの間の幸せを喜んでいただくでしょう。その日の午後四時過ぎ、この度の大地震が起き、家が潰れ、下敷きになり火災が起き、焼け死に、そこに津波までもやってくるという、大惨事が起こったわけです。誰がこんなことになることを予見したでしょうか。まさかこんなことが起こるなんて誰も思いもしなかったのです。

しかし仏法だけはそのことを言い当てていました。「あしたには紅顔あつて、夕べには白骨となれる身なり」「われや先人や先、きょうとも知らず明日とも知らず」「人間のはかなきことは老少不定」と朝元氣でも、夜にはわからないぞ。きょうの命が知れぬ私。そして誰が先かも知れないし若くて元氣でも関係ないぞ。とこの命のはかなさを言葉を尽くして伝えていきます。しかし誰も、元旦からそんな言葉には耳をかさないのです。この日常がずっと続いていくんだとばかりに、自分たちの思い込みを信じて生きていくのです。

言葉に会う時、私たちは「覚悟」するしかないのです。この世は「盛者必衰会者定離」とみな滅んでいくし、会った者は別れていくしかないのです。それも仏法は「無常迅速」と、あつという間に来るぞと言っています。私たちはその真実を覚悟するしかありません。そしてその覚悟した者だけがそこに届いた仏の願ひに耳を傾けることができます。

覚悟にはいくつかの意味がありますが（後記参照）、本来仏教の言葉であり、目覚めること、仏の悟りを意味します。わが命のはかなさを覚悟する時、仏の悟りという覚悟への道が開けます。覚悟は後では意味がないのです。後悔先に立たずの反対で覚悟は後では役に立たないのです。だから一番初めの今、白骨の御文章なのです。

私たちは、様々な身近な人の死に会い仏法とご縁をいただき、覚悟の信心に会わせていただきました。今年はそのことを喜べる私となり、その上でできるだけ健康に仲良く、平和で幸せな一年を送りたいと思います。

合掌

# お念佛のしずく

## 道の宗教…



この真宗の念仏の教えも、親鸞が亡くなった後に、さまざまに日本の力の宗教としての神道と重層して、今日におよんでおります。このことについては過去の歴史を厳しく反省して、正しく親鸞の本意に立ちかえっていかねばなりません。今日、真宗における他力というところが、何かの威力、パワーと理解される側面があるのは、このような真宗の神道化によるものにはかたまりません。皆さんが真宗を学ぶにつれては、もっとも注意していただきたい点です。親鸞の教え、真宗の仏道は、決してパワーの宗教ではありません。それはひとえに称名念仏して仏に成っていく、まことの人間として、成長、成熟していくことをめざす、「道の宗教」であります。

「真宗の大意」

## 暮らしの中の仏教語

### 「覚悟（かくご）」

日本語大辞典には、①迷いを去り真実の道理をさぐること。②あきらめること。③あらかじめ心構えすること。④覚えることと出ています。現在は②や③の意味で用いられますが、「覚」も「悟」も（さとり）で、本来は①の仏さまのさとりを言った仏教語です。華厳経や涅槃経に出ており、親鸞聖人も使われています。私たちは「覚悟」を通して、本来の意味である仏の悟りに向かうのです。ある意味、私たちの信心はその「覚悟」と言えるのではないのでしょうか。

## ちょっと脳トレ

2つの単語が完成するように中央の□にひらがなをいれよう!

①

	く	
ひ	□	ね
	ま	

②

	う	
も	□	か
	ぎ	

③

	く	
す	□	こ
	ら	

④

	き	
お	□	ぶ
	こ	

(あやめ ことば) 4 ① (あやめ ことば) 4 ② (あやめ ことば) 4 ③ (あやめ ことば) 4 ④ (あやめ ことば) 4 ⑤

## 安楽寺法要案内

### --彼岸会法要--

日時 3月23日(土) 朝座  
講師 吾妻町 明法寺支坊 若院 熊谷 隆行 先生

### --宗祖降誕会--

日時 5月18日(土) 朝座  
講師 アサカラザル 久留島 法暁 先生 宮武 大悟 先生

### --永代経法要--

日時 6月22日(土) 朝座・昼座  
講師 廿日市 最禅寺 米田 順昭 先生

時間 朝座10:00~12:00・昼座13:00~15:00  
会場 安楽寺本堂  
※感染症の拡大により、急遽中止する場合があります。